

調査結果のまとめ

2004年3月に宇部地域の自然環境調査結果をまとめて宇部自然環境調査報告書を作成した。その後、2004年11月に宇部市と厚狭郡楠町が合併したため、2006年度からの2ヵ年で楠地域の自然環境調査を実施した。各部門の担当者により詳細な調査・研究が行われ、その結果が本報告書にまとめられている。

宇部地域の西北に隣接する楠地域は、海に面しておらず、完全な内陸地域である。全域が山地又は丘陵地で、平地は国道2号線沿いと有帆川流域の狭い地域と限られ、宇部地域とはやや状況が異なっている。しかし山地といっても楠地域最北端にある荒滝山が標高456mであるので、そう本格的な山地とはいえない。しかし、楠地域は、宇部地域に比べれば、人間による開発はそうなされておらず、自然が豊かに保存されているといえる。

第2章地形・地質に関しては、楠地域は宇部地域より内陸に入り、周辺地域との接点も増えたこともあり、宇部地域より多くの時代の地層の分布が認められ、存在する岩石も種類が多くなっている。

また、第3～7章に述べられている植生、昆虫、淡水魚類、鳥類、哺乳類などの調査に関しては、多少の違いがあっても、そう大きく異なる結果は出ていない。しかしながら、そう多くはないが、この地域独特の種も認められており、今後、保全されていく必要があると思われる。

宇部市は厚狭郡楠町と合併したことでより自然が豊かになったことは間違いない事実である。今回の調査は、調査期間を決して十分とれないなど反省点はあるが、この報告書の完成により楠地域を含めて宇部市全域の各部門に至る自然環境のデータが揃ったことは大変喜ばしいことである。

今後も、随時自然環境調査を実施し、データを充実させながら宇部市の自然環境の保全を図る指針として広く活用し、市民と自然との豊かな交流を創造していきたいと考える。